

学校評価アンケートの考察

本校は、次の3点を重点目標として4月より取り組んでまいりました。

- ① 基本的生活習慣を身に付け、規律ある行動ができる子どもを育てる。
- ② 人権尊重を基盤とする教育活動を行い、自己有用感に裏付けられた自尊感情を高める。
- ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。

また、めざす児童像を分かりやすいフレーズ「あ・か・た」になぞらえて、次の3つの言葉をキャッチフレーズとして取り組みました。

あ：	あかるい子	・・・豊かな心（徳）
か：	かんがえる子	・・・学力向上（知）
た：	たくましい子	・・・健康・安全（体）

以上の取り組みをふまえ、学校評価アンケートの結果を大きく次の3つにまとめて考察いたします。

学校生活への適応に関すること

- 【1_学校が楽しい（肯定的回答：児童 93%，保護者 87%，教職員 100%）】
- 【11_友達を大切にしている（肯定的回答：児童 99%，保護者 93%，教職員 95%）】
- 【17_先生は自分の良いところやがんばったことを認めてくれる（肯定的回答：児童 91%，保護者 93%）】

項目1の「学校が楽しい」に対し、児童の93%，保護者の87%が肯定的な回答でした。学校生活の楽しさは、友人関係や教職員との信頼関係、学習状況、学級の雰囲気など多くの要素が大きく影響しています。家庭状況に複雑な想いを抱える児童もありますが、学校では安心して過ごせる楽しい場所であり続けたいと考えています。7%の否定的回答で児童に対してはその背景を教職員全員で丁寧に看取り、把握して指導に努めてまいります。今後も教職員が児童理解を深め、情報共有を図り、全員が安心して楽しく学べる学校を目指します。

昨年度に比べて、児童の「友達を大切にしている」という肯定的な回答が11%増加し、99%に達しました。保護者も93%が肯定的な回答をしています。これは、昨年度の市人権や来年度の人権発表に向けた取り組みの成果と、教職員全員が子ども一人一人を大切に、トラブルがあった際に迅速かつ丁寧に対応した結果と考えられます。友達同士のトラブル件数は減少し、保健室を訪れる児童も減少傾向にあります。休み時間には外遊びをする児童が増え、教職員も一緒に外遊びをする姿が見られます。しかし、自分が友達を大切にしていない、仲間とうまくいっていないと感じている児童も8%ありました。これからの小さな事を見逃さず、自分を取り巻く周りの人の気持ちを目を向けさせ、仲間の大切さ伝えていく指導を継続していきます。

項目17の「先生は自分の良いところやがんばったことを認めてくれる。」の項目に対して、96%の児童が肯定的に回答しました。これは、教職員が子どもたち一人一人に関心を持ち、日々の努力や成長を見逃さず、児童本人が納得する評価を行った結果だと考えます。児童の話をよく聞き、共感し、励ましの言葉をかけることは、児童一人1人の自己肯定感を高めます。今後も、困難に直面した児童に適切なサポートを提供し、成功体験を積み重ねることで、信頼関係を築き、児童の学びや成長に良い影響を与える教職員であり続けたいと思います。

学習活動に関すること

- 【 3_先生や人の話をしっかりと聞いている。（肯定的回答：児童 95%，保護者 92%，教職員 85%） 】
- 【 4_授業はよくわかる。（肯定的回答：児童 88%，保護者 89%，教職員 90%） 】
- 【 13_授業で分からないことを先生に質問することができる（肯定的回答：児童 71%，保護者 88%） 】
- 【 12_授業中、しっかり考え、進んで発表することができている（肯定的回答：児童 71%，保護者 80%） 】

項目3「先生や人の話をしっかりと聞いている」では、95%の児童が肯定的な回答を示し、保護者の回答も92%、教職員の回答は85%と昨年度に比べて大幅に向上しました。特に、「よくあてはまる」と答えた児童の割合は12%、教職員の肯定的な回答は40%以上の向上が見られました。話を聞けない児童への指導が本校の課題でしたが、日々の指導の成果が現れ始めました。この改善の背景には、一貫した指導と振り返りの積み重ね、全職員の協力と取り組み、そしてポジティブな行動支援の強化挙げられます。特に、全職員が協力して取り組んだことで指導が一貫性を持ち、児童たちの行動や態度に改善が見られました。保護者の協力も児童の聞く態度の改善に寄与し、結果として教育環境の改善に繋がりました。今後もこれらの取り組みを強化していきます。

項目4「授業はよくわかる」については、児童の88%が肯定的な回答を示しました。昨年度までは児童、保護者、教職員の回答に差が見られましたが、今年度は三者の評価に差がなくなり、特に教職員からの評価が向上しています。児童の「聞く」習慣が身につく始め、生活習慣の変化とともに学習規律も向上しています。授業に集中する児童が増え、教職員が得意分野を生かしながら学級経営を行うことで、児童の信頼や学ぶことへの興味関心が高まりまわると考えます。ゲストティーチャー、ICT機器の活用、外部講師による講話も児童に与える影響は大きいと考えています。今後も児童の実態や保護者の願い、教職員の特性に応じた指導方法を取り入れ、「わかる授業」の実現に向けた研修を続けていきます。

項目12・13では、主体的な学習の姿を評価しています。項目12では教職員の肯定的回答75%に対して、児童の肯定的回答は76%でした。限られた時間の中では全員が発表することはできませんが、教員が思うより多くの児童が進んで発言しないといけな、もっと発表したいと考えているとも受け取れます。今後も授業の中で、講義的な場面をできるだけ少なくし、意見交換の場面を増やし、発言者に偏りがないように配慮して学習活動を進めるよう留意していきます。

基本的生活習慣・規範意識の育成に関すること

- 【5_あいさつをしている（肯定的回答：児童 88%, 保護者 78%, 教職員 68%）】
- 【6_自分の役割を果たす（肯定的回答：児童 93%, 保護者 67%, 教職員 90%）】
- 【7_時間を守っている（肯定的回答：児童 88%, 保護者 73%, 教職員 75%）】
- 【8_交通ルールを守る（肯定的回答：児童 97%, 保護者 96%, 教職員 90%）】
- 【10_規則正しい生活（肯定的回答：児童 86%, 保護者 79%, 教職員 85%）】

項目5の「挨拶」についての肯定的回答は、児童が88%（昨年90%）でした。相手の目を見て、自分から挨拶ができる児童を育てることは本校の課題でした。数値にはまだ表れていませんが、職員の指導や、6年生の挨拶運動が契機となり自分から挨拶をする習慣が身についてきました。また、集団登校の際には、毎日交通安全を見守ってくださる地域の方やボランティアに対して感謝の気持ちを挨拶で伝えるように指導しています。日々の人権教育や生徒指導を通じて、自分も相手も大切にし合える子どもたちを育て、自分の気持ちを態度や言葉で表現し心のこもった挨拶ができるよう指導を継続していきます。

項目6「自分の役割を果たす」（93%）、項目7「時間を守っている」（88%）、項目8「規則正しい生活」（86%）の項目では、いずれも肯定的回答の合算割合は昨年度と比べ大きな変化はありませんでしたが、「よくあてはまる」と答えた児童の割合が増加しました。具体的には、「自分の役割を果たす」は昨年度比11%増、「時間を守っている」は10%増、「規則正しい生活」は8%増です。教職員からの肯定的回答も、「自分の役割を果たす」で昨年度比5%増、「時間を守っている」で7%増、「規則正しい生活」で22%増となりました。保護者にはまだ十分伝わっていないものの、校内における基本的生活習慣が身についてきました。業間休みや昼休み終了後すぐに校舎に戻るようになり、委員会活動や無言清掃などに落ち着いて取り組む姿が見られます。今後も指導を継続してまいります。

項目8の「交通ルールを守る」の項目では97%の児童が肯定的回答をしています、交通安全に対する意識を更に高める必要があると感じています。黄色帽子の着用や班長旗、押しボタン信号や左右確認等の徹底等の指導を続けています。最近では学校周辺で工事おこなわれている影響で交通量が増えています。また登下校の時間帯であっても、運転マナーの悪い交通車両も少なくありません。児童には危機意識をしっかりと持たせていきたいと考えています。今後も、地域の方の協力も得ながら、交通事故の防止に取り組んでまいります。

基本的生活習慣や規範意識の育成には、家庭や地域の教育力が欠かせません。学校で知識として学ぶだけでなく、ご家庭や地域の皆様のご協力をお願いしながら、今後も子どもの健やかな成長の礎となる、基本的生活習慣の定着や規範意識の醸成に努めます。

家庭・地域との連携に関すること

- 【19_家庭・地域と連携し、様々な行事や取り組みを行っている（肯定的回答：児童 96%, 保護者 86%）】
- 【20_学校は保護者からの連絡や相談に適切に応じている（肯定的回答：保護者 92%, 教職員90%）】
- 【21_学校は学校便り、学校HP等で積極的に情報発信・提供している（肯定的回答：保護者 91%）】

項目19の「家庭・地域と連携し、様々な行事や取り組みを行っている」に対し、児童の96%、保護者の86%が肯定的な回答となりました。世帯数の減少に伴いPTA活動においても、役員数の減少及び活動内容

の変更を見なおす時期になっています。また各家庭における休日の過ごし方や生活環境の変化、働き方改革等を考慮したうえで、行事の精選及び実施方法や内容等の見直しも行う必要も考えられます。保護者や地域の方々と連携を密にとりながら、児童にとってよりよい活動につなげていきたいと考えています。

項目20「学校は保護者からの連絡や相談に適切に応じてくれていますか。」に対して保護者の肯定的な回答は92%でした。それに対して、「保護者からの連絡や相談に真摯に応え、適切に処理している。」に対する教職員による自己評価は、肯定的な評価が90%このことから教職員による自己評価よりも、保護者からの評価の方が高いことが分かりました。

本校は決して楽な勤務形態ではありません。様々な保護者対応や、生徒指導に追われる日々です。特に支援学級在籍児童数の割合は高く、様々な特性を持っています。そのような中でも、本校の職員は日々子どもの特性の把握に努め、子ども一人一人の幸せのために教職員が一丸となって真摯に対応をしている姿勢が今回の結果に繋がっていると考えます。今後も家庭と力を合わせながら、子どもの更なる成長につなげていきたいと思ひます。

項目21の「学校は学年だよりや学校だより、また学校HP(ホームページ)などで、積極的に情報を発信・提供していますか。」に対して肯定的に回答した保護者の割合は92%でした。土成小学校のホームページは今年度開始以降、3日に1度のペースで更新を行っています。連絡等のメール送信回数は現時点で100件を越えます。各学年の取り組みや学校行事、各種案内等についてのこまめな連絡やホームページの更新が今回の結果につながっていると考えひます。今後も保護者の方々はもちろん、地域の方々に対しても積極的に情報発信・提供に努めてまいります。